令和６年３月４日

公立学校共済組合新四国中核病院整備事業　設計施工一括発注方式による
一般競争入札（総合評価落札方式）結果について

標記の件について、下記のとおり公表します。

記

１．落札者
清水建設・伊藤喜三郎建築研究所特定建設工事共同企業体

２．落札者以外の入札参加者
大成建設・石本建築事務所共同体
鹿島・内藤・井原・尾藤共同体

３．事業期間
事業契約締結日～令和１０年５月末（予定）

４．技術提案書概要版（次ページ以降のとおり）
設計段階で変更になる可能性があります。

上記のとおり相違ないことを証明する。
令和６年３月４日
公立学校共済組合本部　施設部
建築課長　　遠 藤　哲 朗

技術提案書概要版

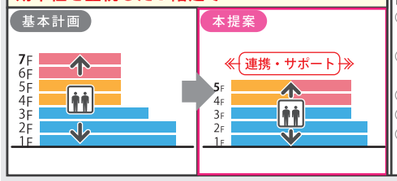
新病院づくりの６つのコンセプト

基本方針に基づき６つのコンセプトで新病院を創ります

1. やまじ風の影響を受けず最短動線の救急・災害対応機能
2. 建物向き･配置によって利便性向上と周辺環境に配慮した病院
3. 連携とサポート強化をつくる１フロア２部門配置の病棟階
4. 安心の感染ワンウェイ入院動線と感染拡大時のバリエーション
5. EV を軸とした関連部門の近接性と良好な職域環境づくり
6. 低層化による面積の有効活用とライフサイクルコスト削減

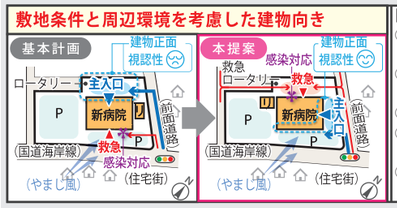
『価値向上』を実現する２つの形態

効率性を重視した５階建て



■改善点
① フロア間の連携・サポートのしやすさ
② 6,7階ＥＶホール等の共用スペース有効活用
③ 外周長さの軽減
④ ＥＶの待ち時間短縮
⑤ 日影の影響を軽減

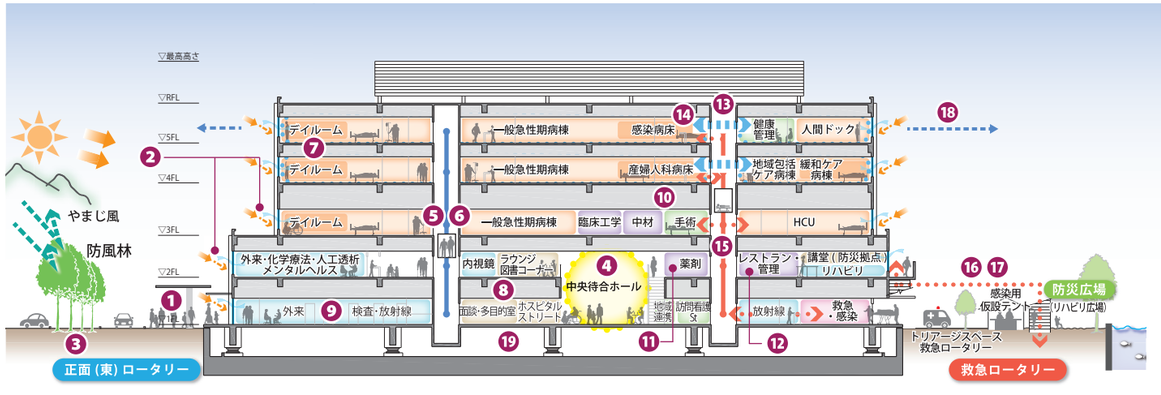
敷地条件と周辺環境を考慮した建物向き



■改善点
① 国道、住宅街からわかりやすい主入口
② やまじ風の影響が少ない各ロータリー
③ 新病院に相応しい正面づくり
④ 複数アプローチ可能な救急ロータリー
⑤ 一般駐車場から離れた感染対応エリア

効率性を重視した５階建て

タテの動線短縮とヨコの連携・サポート強化をつくる５層計画とします

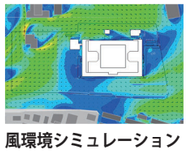


❶わかりやすい正面玄関
❷南面の外来とデイルーム配置で国道側に「病院の顔」を創出
❸東側正面ロータリーと防風林でやまじ風軽減
❹建物中心に据えた中央待合ホールと関連部門の近接配置で動線短縮
❺来院者がわかりやすいEV配置
❻EV待ち時間短縮
❼明るいデイルーム
❽支援センター機能集約
❾外来・検査・放射線近接
❿ME・中材・手術近接
⓫他階移動しやすい薬剤部
⓬管理部門セキュリティ強化
⓭同一フロアのスタッフ連携・サポート強化
⓮専用診察室から感染EV－感染病床へのワンウェイ動線
⓯救急ロータリーから救急・手術・HCU・一般急性期病棟への最速急性期ライン構築
⓰講堂（防災拠点）から防災広場への直通階段
⓱リハビリからリハビリ広場への直通階段
⓲瀬戸内海眺望に配慮した人間ドック・ラウンジ
⓳ロングスパン免震構造

敷地条件と周辺環境を考慮した建物向き

ダブルロータリーで利便性と機能性を兼ね備えた計画とします

❶東側に主入口、北側に救急・サービス・スタッフ出入口を配置し、国道海岸線と前面道路に建物の正面性を持たせた、地域に開かれた計画
❷防風林により、風に対するさらなる対応
❸患者車両と救急車両、職員車両動線を明確に分け、異種車両の交錯が少なく通行の安全性に配慮
❹歩車動線の分離と建物周囲に庇を設置し、利用者の安全性を確保
❺建物に沿ったL字駐車場と西入口により駐車場からの歩行動線を短縮
❻感染拡大時は感染部門にアクセスしやすい位置に仮設テントを整備可能な計画
❼風環境シミュレーションの結果、風の影響を受けにくい東西に利用者出入口、北側にバックヤード出入口



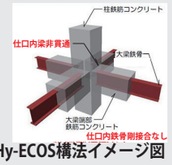
風環境シミュレーション

技術提案書概要版

建設企業独自のノウハウの提案

■プランの自由度を高める大スパン構法

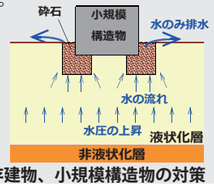
・RC造とS造の両構造の特性を生かした建設企業の保有技術「Hy-ECOS構法（鉄骨梁端部RC補強工法）」で、剛性の高い大スパン架構により、柱の少ない空間が実現します。室内レイアウトの自由度が高まり、将来の医療ニーズの変化に柔軟に対応できます。



Hy-ECOS構法イメージ図

■免震建物以外の液状化対策

・小規模構造物や設備トレンチ・インフラの液状化被害を有効に防止できる建設企業の特許技術「グラベルサポート」を採用します。

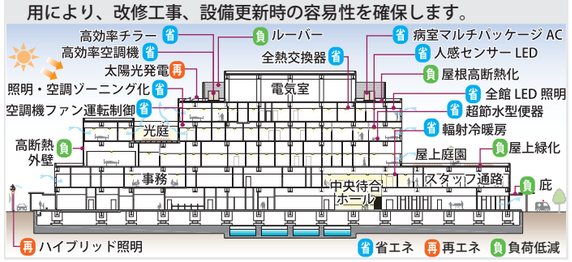


既存建物、小規模構造物の対策

対策の有無による被害違い

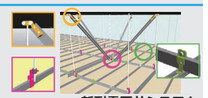
省エネ対策

・定量的目標値を設定することで、ライフサイクルCO2(LCCO2)低減を測ります。
・省エネ値BEI≦0.85以下のBEI<0.7とし、ZEB Orientedを目指します。
・LCCO2削減量は550t/年削減を目指します。
・CASBEE評価はA以上とします。
・高効率機器を分割設置、太陽光発電30KW設置等、省エネを重視します。
・空冷ヒートポンプ方式による個別空調方式や小型電気温水器との併用により、改修工事、設備更新時の容易性を確保します。

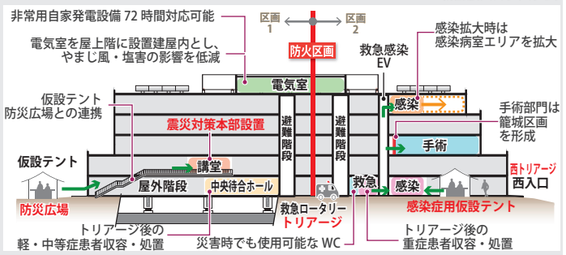


災害拠点病院として安全安心な病院

・地震時の天井落下によるリスク低減のため、高天井部分は、建設企業が開発した阪神淡路大震災クラスの地震に耐えうる新耐震天井システムを採用します。



新耐震天井システム



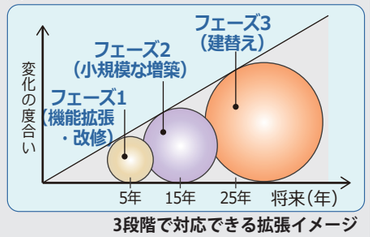
将来対応

・段階的拡張を想定します。

フェーズ1
用途変更による機能拡張、改修工事

フェーズ2
小規模な増築への対応

フェーズ3
運用を継続したままで将来建替え可能な計画



3段階で対応できる拡張イメージ

・ロングスパンやスケルトンインフィルにより変化に対応し持続可能な施設づくりを行います。
・病院の運営への影響を最小限とした、増築・改修計画とします。

5F

・感染状況、感染入院者数に応じて簡易間仕切りで区画し、病床拡張に柔軟に対応できる病棟計画
・柱スパンを 6.1mとし、現病院増築棟と同程度の幅を確保
・健診センターは最上階に配置し、宿泊エリアのラウンジは瀬戸内海側に窓を設けることで眺望に配慮

感染状況に対応できる病床計画と効率的に検査が行える健診センター

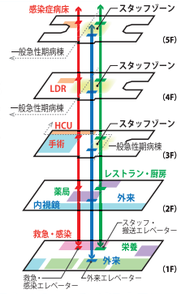
4F

・1 フロア 2 看護の病棟計画とし中央にスタッフ諸室を集約させることで効率的な運用が可能
・センターコア付近に SS をつなぐスタッフベースを設け、連携強化やコミュニケーション活性化を促進
・新病院の顔となる南側に眺望の良いデイルーム、食堂、リハビリが一体となったスペースを計画

ワンフロア2部門の合理的な病棟エリア

3F

・1階に配置した救急部門から、手術室までエレベーターでスムーズな搬送が可能
・術後患者のスムーズな搬送のために HCU を手術部門と同階に設け、搬送動線が最短となるように配慮
・緊急搬送時は救急・感染エレベーターで搬送し、エレベーターのメンテナンスや不具合時にはスタッフ用エレベーターでも搬送が可能な計画
・ME 機器管理室と中央材料室を近接させ、連携しやすい計画



各部門との連携や迅速な対応が可能な手術部門

2F

・吹抜を中心に利用者が多い部門を配置し患者・スタッフが利用しやすい配置計画 (ホスピタルリンク)
・プライバシーを重視する外来を 2 階に集約配置し、中待合を計画
・日常・非日常も機能する、連携を重視した防災広場と講堂
・外部に面した明るく快適な職場環境

吹抜を中心とした部門配置と、外部とも連携しやすいバルコニーの設置

1F

・ホスピタルストリートを病院中央に通し、その真ん中に中央待合ホールを配置した明快な動線計画
・ホスピタルストリートに面して各受付を設置
・初療室に隣接した救急 EV、搬送 EV で手術室への最短動線を確保
・救急・時間外と CT、一般撮影室の近接配置

中央待合ホールを中心とした、行先の分かりやすい配置プラン